



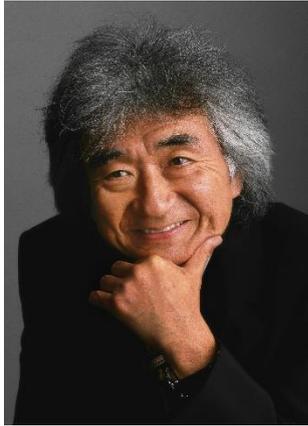
# 水戸芸術館 令和5年度事業計画

公益財団法人 水戸市芸術振興財団



## 目 次

ご挨拶	1
水戸市芸術振興財団事業計画	2
音楽部門事業	4
演劇部門事業	25
美術部門事業	39
地域共催事業	52
アートで応援プロジェクト	58
水戸市民会館開館記念事業	59
吉田秀和賞	62



©Shintaro Shiratori

水戸芸術館は 1990 年に開館し、吉田秀和初代館長を中心に充実した活動を行い、その存在は日本の芸術文化の歴史に残るものになってきています。

開館 33 周年を迎え、これからも音楽・演劇・美術をますます発展させ、芸術を身近で親しまれるものになるよう努めてまいりますので、皆様のご支援をお願いいたします。

水戸芸術館

館長 小澤征爾

## —水戸芸術館の運営基本理念—

### 新しい芸術文化を創造する

芸術館は、既成の評価、ジャンルにこだわらず独自の視点に基づいて活動を行い未来へ向けて新しい芸術文化を創造する。

### 国際的な視野にたつて芸術文化の交流を行う

芸術館は、国内はもとより国際的な視野にたつて芸術文化の交流を行い市民の文化意識の向上と日本の芸術文化の振興に貢献する。

### 楽しみながら考える

芸術館は、幼児から高齢者まで構えることなくいつでも立ち寄りそれぞれが楽しみながら芸術文化に親しみその意味を考えられるような場となる。

### 市民の芸術文化活動の拠点となる

芸術館は、市民の芸術文化の創造及び発表の機会の提供を行うなど市民の芸術文化活動の拠点となる。

### 都市の活性化に寄与する

芸術館は、市民の文化的創造の中心としてはもとより都市の核として各種機能また、まちづくりと連携して活動を展開し都市の活性化に寄与する。

## 令和5年度公益財団法人水戸市芸術振興財団事業計画

令和5年度水戸市芸術振興財団は、水戸芸術館において、これまでの実績を踏まえ、「新しい芸術文化を創造する」「国際的な視野にたって芸術文化の交流を行う」「楽しみながら考える」「市民の芸術文化活動の拠点となる」「都市の活性化に寄与する」を運営の基本理念に、芸術文化の創造と振興を図り、市民文化の向上のため、音楽、演劇、美術の各分野で多彩で魅力あふれる事業を実施してまいります。開館33年目となる今年7月には、当館南側に2,000人収容の大ホールや中小ホール、会議室などを持つ市民会館が開館いたします。市民会館、京成百貨店、そして当館の連携によって、3つの施設から成る愛称「MitoriO(ミトリオ)」地区の振興と中心市街地の活性化にも寄与してまいります。

公益目的事業として、音楽部門では、小澤征爾館長の監修による水戸室内管弦楽団の定期演奏会や世界の優れた弦楽四重奏団など注目すべき演奏家を招いての企画、地元演奏家によるコンサートなどを引き続き開催いたします。また、「水戸室内管弦楽団 子どものための音楽会」「市民のためのオルガン講座」などの教育普及事業を通して魅力あふれる音楽の世界に触れる機会をつくってまいります。

演劇部門では、プロデュース公演の開催、気鋭の演出家による公演、著名な俳優が出演する公演、地元の若いアーティストを育成する「新・未来サポート事業」、さらに、狂言や落語の伝統芸能など舞台芸術作品を広く紹介し、演劇をより楽しむための様々な事業を展開します。教育普及事業では、「子どもミュージカルスクール」や劇団ACM「小学生のための演劇鑑賞会」を引き続き行うほか、各種ワークショップなどにより幅広い世代が演劇に興味関心を深める機会を創出いたします。

美術部門では、ケアとその担い手について考えるグループ展「ケアリング/マザーフード」展、浮遊感あふれる彫刻を作る今村源、テキスタイルデザイナー須藤玲子の個展を開催いたします。教育普及事業では、「アーティストワークショップ」「アートとケアをむすぶプログラム」など現代美術に触れる多様な企画を実施いたします。

また、水戸市民会館開館記念事業として、市民会館大ホールでは「サイトウ・キネン・オーケストラ プラス・アンサンブル」などの演奏会、中ホールでは「ファンファーレ!!～響き続けた吹奏楽部の物語～」、「アートセンターをひらく 2023」では市民会館内に作品展示を行います。そのほか「水戸市民会館設計・建築資料展示」や「芸術館・市民会館建築ツアー」等を実施いたします。

これらの事業に加え、当財団の公益目的事業として、芸術評論を対象とした「吉田秀和賞」を運営いたします。

このように、これまで積み上げてきた事業の成果を生かしながら、優れた芸術作品を提供する企画事業、子どもたちが豊かな感性を育むような教育普及事業、市民の様々な創作活動による「水戸市芸術祭」のほか、開放的な空間を活用した広場での地域共催事業、さらに本年度は新型コロナウイルス対応事業、水戸市民会館記念事業を開催してまいります。また水戸芸術館メンバーズの拡大、広報活動の強化などにより、市民の参加と理解を深め、より多くの市民の支持をいただくように努めてまいります。

コロナ禍や物価高騰などの厳しい社会状況により芸術文化をめぐる環境がより厳しくなる中、地域や各種団体等との連携、そして公的支援、民間企業等の協力を一層強固にし、“一まちの中へ、人のこころに一 楽しもう、アート・生活・MitoriOを”を新しい運営方針として掲げ、これまで以上に音楽、演劇、美術を身近で親しまれるものになるよう努め、来館者の安心安全を確保した上で、人のこころに感動を生むような質の高い事業を効率的かつ効果的に実施することにより、公益財団法人としての運営の充実強化を図り、中長期的に安定した運営の確立を目指してまいります。

音楽、演劇、美術の3部門がそれぞれに、3つの事業を柱に取り組んでいます。

## 水戸芸術館



### 1 多彩で魅力あふれる企画事業

音楽、演劇、美術の各部門が、コンサートホール、劇場、現代美術ギャラリーの各専用空間を最大限に活用し、国内外で活躍するアーティストによる多彩で質の高い企画事業を制作・展開しています。

### 2 創作体験・学びの場としての教育普及事業

観客、聴衆として来館するだけでなく、創作活動に参加したいという人の意欲に応える事業や、芸術を学びたいという意欲を喚起するための手立てを、工夫をこらし実施しています。

### 3 地域との共催事業

地域の芸術家が出演・出品する事業や、地域を舞台にした公演・展覧会などを様々な機関・団体等のまちづくりと連携して活動を展開し都市の活性化に寄与しています。



未知の音を聴き、未知の世界を知る——その革新性こそが芸術の真髄ですが、コンサートホール ATM も未開の領野を切り拓くべく、新しい企画を展開していきます。また、市民の皆様の芸術文化の創造と発表の機会を提供すると共に、幼児から高齢者まで芸術文化に親しんでいただく教育普及プログラムを実施します。

**1. 世界へ発信する専属楽団企画**

「水戸室内管弦楽団（MCO）」による演奏会  
新専属楽団「カルテット AT 水戸」の結成

**2. 学芸員が独自の視点で企画するオリジナル企画**

**3. 国際舞台の最前線で活躍する名演奏家たちを招聘する企画**

**4. 茨城の演奏家が出演する企画 ～地域の音楽文化のいっそうの発展を目指して～**

**5. 教育普及事業 ～魅力ある音楽体験をすべての世代へ～**

## 1. 世界へ発信する専属楽団企画

世界的に活躍する日本人演奏家を中心にした室内オーケストラである「水戸室内管弦楽団」。わが国のクラシック音楽活動の精華を、水戸から世界に発信します。

---

【水戸室内管弦楽団】(Mito Chamber Orchestra 以下 MCO) とは



1990年、水戸芸術館の専属楽団として、初代館長・吉田秀和の提唱により誕生しました。日本を代表する指揮者である小澤征爾が、2013年水戸芸術館の館長に就任すると同時にMCOの総監督となり、その運営にあたっています。メンバーは、ソリストとして、またオーケストラの首席奏者として世界的な活躍を続ける精鋭たち。小澤征爾をはじめ指揮者を迎える演奏会とともに、指揮者を置かないアンサンブルによる演奏会にも力を入れています。日本人作曲家への委嘱も積極的に行っており、一柳慧〈汽水域〉、林光〈悲歌〉、平義久〈彩雲〉などの作品が初演されています。また、メジャーレーベルよりCD、DVDを多数リリースしており、現在も小澤征爾とのベートーヴェン・シリーズを継続中です。東京や大阪など水戸以外での館外公演も積極的に行っています。1998年、2001年、2008年にはヨーロッパ公演を行い、世界有数の室内管弦楽団との評価を確立しました。

5月13日（土）、14日（日）

水戸室内管弦楽団・別府アルゲリッチ音楽祭共同制作

水戸室内管弦楽団 第111回定期演奏会

～マルタ・アルゲリッチとの5度目の共演。

「エル・システマ」出身の若き巨匠、ディエゴ・マテウスを迎えて～



別府アルゲリッチ音楽祭との共同制作で開催。次代を牽引する指揮者として大きな注目を集め、小澤征爾館長の信頼も厚いディエゴ・マテウスが初登場。世界最高峰のピアニストであり、MCOと熱演を重ねてきたマルタ・アルゲリッチを迎えてラヴェルのピアノ協奏曲をお届けします。

指揮：ディエゴ・マテウス ピアノ独奏：マルタ・アルゲリッチ

曲目：

プロコフィエフ：交響曲 第1番 二長調 作品25 〈古典的〉

ストラヴィンスキー：組曲〈プルチネッラ〉

コダーイ：ガランタ舞曲

ラヴェル：ピアノ協奏曲 ト長調

5月16日（火）

別府アルゲリッチ音楽祭・水戸室内管弦楽団共同制作

日本生命 presents ピノキオ支援コンサート

室内オーケストラ・コンサート

会場：東京オペラシティ コンサートホール

曲目：第111回定期演奏会と同じです。

主催：（公財）アルゲリッチ芸術振興財団

10月21日（土）、22日（日）  
水戸室内管弦楽団 第112回定期演奏会

～オーボエの巨匠であり指揮者としても活躍する、ハインツ・ホリガーが3回目の登場～



オーボエの巨匠であり指揮者としても活躍する、ハインツ・ホリガーと水戸室内管弦楽団との3度目の共演。大作曲家としての一面を持つホリガーの前衛的な作品やシューベルトの「未完成」交響曲などをお贈りします。



水戸室内管弦楽団 第91回定期演奏会（2014年）より 撮影：大窪道治

指揮・オーボエ独奏：ハインツ・ホリガー

曲目：

ホリガー：メタ・アルカ

フンメル：オーボエと管弦楽のための序奏、主題と変奏曲 作品 102

ケルターボルン：オーボエと弦楽オーケストラのための変奏曲

シューベルト（モーザー編）：アンダンテ 口短調 D936A

シューベルト：交響曲 第7番 口短調 D759〈未完成〉



## 水戸室内管弦楽団

### 総監督

小澤征爾

### 創立名誉総監督

吉田秀和

### 名誉顧問

小口達夫

### 楽団長

堀 伝

### 楽団員代表

猶井正幸

### パーソネルマネージャー

志賀佳子

### 名誉楽団員

工藤重典（フルート）

水野信行（ホルン）

宮本文昭（オーボエ）

### ヴァイオリン

安芸晶子＊

小栗まち絵

川崎洋介

佐份利恭子

島田真千子

竹澤恭子

田中直子＊

豊嶋泰嗣＊

中村静香

### ヴィオラ

モーリン・ガラガー

川崎雅夫

川本嘉子

店村眞積＊

### チェロ

上村昇

原田禎夫＊

宮田大

### コントラバス

池松宏

### フルート

セバスチャン・ジャコー

### オーボエ

フィリップ・トーンドゥル＊

### クラリネット

リカルド・モラレス

### ファゴット

ダーク・イェンセン

### ホルン

猶井正幸＊

ラデク・バボラーク

### ステージマネージャー

佐藤昌樹

### メモリアルメンバー

潮田益子（ヴァイオリン）

江戸純子（ヴィオラ）

ローランド・アルトマン

＊運営委員

協賛：（株）アダストリア、NEC、水戸証券（株）、（公財）げんでんふれあい茨城財団、

（株）吉田石油、水戸京成ホテル

協力：全日本空輸（株）

後援：（株）茨城新聞社、水戸商工会議所

## 水戸芸術館・新専属楽団 カルテット <sup>アット</sup>AT 水戸

この夏、「水戸室内管弦楽団」「新ダヴィッド同盟」に続く新たな専属楽団「カルテット AT 水戸」が始動します。

水戸芸術館館長の小澤征爾が絶大な信頼を寄せ、水戸室内管弦楽団ならびにオタワ・ナショナル・アーツ・センター管弦楽団のコンサートマスターを務める川崎洋介を中心に、国内外で活躍する西野ゆか、柳瀬省太、辻本 玲が集い、水戸芸術館の専属楽団として2023年に結成。時代を越えて愛される弦楽四重奏の名作の魅力を広く伝えると同時に、まだ知られていない優れた作品を紹介することを活動の柱としています。4人のメンバーは年に1度、入念なりハーサルを通して音楽を磨き上げ、コンサートホール ATM での演奏会に臨みます。さらに福祉施設等へのアウトリーチや子どもたちへの指導など、地域に根差した交流を通して様々な人々に音楽の愉しみを伝える活動を行います。アルカス SASEBO のレジデンス楽団「アルカス・カルテット」で10年に渡って共に活動を続けてきた名手4人が、弦楽四重奏の新たな地平を切り拓きます。

### 【メンバー】

#### 川崎洋介（ヴァイオリン）

10歳でジュリアード音楽院予科に入学を認められ、1998年卒業。現在オタワ・ナショナル・アーツ・センター管弦楽団のコンサートマスターを務める。「トリオ・インク」のメンバー、アフィニス夏の音楽祭の音楽監督を務めるなど、室内楽奏者としても目覚ましい活躍をみせている。

#### 西野ゆか（ヴァイオリン）

桐朋学園大学音楽学部を経て、同大学研究科修了。第5回パオロ・ボルチアーニ国際弦楽四重奏コンクール（イタリア）において最高位、併せてサルバトーレ・シャリーノ特別賞など受賞。東京藝術大学室内楽科非常勤講師。カルテット・エクセルシオ第1ヴァイオリン奏者。

#### 柳瀬省太（ヴィオラ）

東京藝術大学音楽学卒業後、桐朋学園ソリスト・ディプロマコースに学ぶ。2002年イタリア・パドヴァに留学、オーケストラ・ダルキ・イタリアーナで活動後、シュトゥットガルト州立歌劇場管弦楽団に入団。現在読売日本交響楽団ソロ・ヴィオラ奏者を務める。

#### 辻本 玲（チェロ）

東京藝術大学音楽学部器楽科を首席で卒業。その後シベリウス・アカデミー、ベルン芸術大学に留学。第72回日本音楽コンクール第2位（「聴衆賞」受賞）。2009年ガスパール・カサド国際チェロ・コンクール第3位入賞（日本人最高位）等受賞歴多数。現在NHK交響楽団首席チェロ奏者を務める。

8月6日(日)

水戸芸術館・新専属楽団 カルテット <sup>アット</sup>AT 水戸 第1回演奏会  
～名手4人によるカルテット、新たなる船出～



川崎洋介 (ヴァイオリン)



西野ゆか (ヴァイオリン)



柳瀬省太 (ヴィオラ)



辻本 玲 (チェロ)

想像力を刺激するプログラムをお届けすることを標榜するこのカルテットの記念すべき第1回演奏会は、モーツァルト円熟期の〈プロシャ王 第1番〉で幕を開けます。続く〈弁慶の立ち往生〉は、日本にルーツを持つアメリカ生まれの音楽家ポール・ウィアンコが2020年に発表した意欲作。武蔵坊弁慶が五条大橋で牛若丸と出会い、後に衣川の戦いで身を挺して彼を守るというエピソードを、弦楽器の様々な奏法を駆使してエキサイティングに描写した作品です。後半は、シューベルトが病魔に侵されながらも筆を走らせ、弦楽四重奏のレパートリーで燦然と輝く名作となった〈死と乙女〉をじっくりとご堪能いただきます。曲目に関するトークを交え、客席と一体感のあるアットホームな公演を作り上げる「カルテット AT 水戸」の新たなる船出にご期待ください！

曲目：

モーツァルト：弦楽四重奏曲 第21番 二長調 K.575 〈プロシャ王 第1番〉

ウィアンコ：弁慶の立ち往生

シューベルト：弦楽四重奏曲 第14番 二短調 D810 〈死と乙女〉

## 2. 学芸員が独自の視点で企画するオリジナル企画

音楽部門学芸員が、社会的意義や地域の皆様のニーズをふまえながら独自の視点で企画・制作するオリジナル企画です。

5月26日（金）

愛知県芸術劇場舞台芸術鑑賞教室 2023「劇場と子ども7万人プロジェクト」

小学生のためのコンサート『たいようオルガン』

会場：愛知県芸術劇場コンサートホール

～水戸芸術館オリジナル企画が愛知へ～



（左から野村 誠、小林沙羅、石丸由佳、荒井良二）

出演：小林沙羅（ソプラノ）、石丸由佳（オルガン）

主催：愛知県文化振興事業団

水戸芸術館が企画・制作した「たいようオルガン」を、今年度は愛知の子供たちにもお楽しみいただきます。人気絵本作家・荒井良二の『たいようオルガン』を元に生まれた音楽作品を、原画とともに上演します。

6月24日（土）

テリー・ライリー 88th バースデー・コンサート

～コロナ禍の中で日本に移住し米寿を迎えるライリーの今～



短い旋律やリズム・パターンを何度も反復させるミニマル・ミュージックの開祖の一人、テリー・ライリー（キーボード、ヴォーカル）。2020年から日本に住み、6月24日に88歳の誕生日を迎える彼の即興演奏を中心としたパフォーマンスです。

Vol.7：7月2日（日）「19世紀ドイツのオルガン音楽 ～ドイツ的とは?～」

オルガン・レクチャーコンサート ※Vol.8：2月3日（土）

会場：エントランスホール

～オルガンの魅力をより深く知るために～



コーディネーター：室住素子

講師：椎名雄一郎（7月2日）、小林英之（2月3日）

パイプオルガンの魅力を深く知っていただくため、2020年度から開催しています。今年度はシリーズの締めくくりとして、19世紀以降のドイツにおけるオルガン音楽をテーマに掲げ、レクチャーと演奏の両方で知的好奇心を刺激する公演をお届けします。

9月18日（月・祝）  
中田喜直の“うた”の世界  
～生誕100年に寄せて～



塚田佳男 ©遠藤湖舟

監修・司会：塚田佳男

出演：小泉恵子、田坂蘭子（以上ソプラノ）、  
布施雅也（テノール）、清水良一（バリトン）、田中悠一郎（ピアノ）

〈めだかの学校〉〈ちいさい秋みつけた〉  
等の童謡から〈夏の思い出〉〈さくら横ち  
ょう〉等の唱歌・歌曲まで、数多くの歌  
作品を残した中田喜直（1923～2000）。  
生誕100周年を記念して、氏が残した心  
に響く日本語の歌の数々をとりあげま  
す。

9月23日（土・祝）  
庄司紗矢香（ヴァイオリン）& ベンジャミン・グローヴナー（ピアノ）&  
モディリアーニ弦楽四重奏団

～庄司紗矢香が世界の名手を集めてお届けするショーソンの傑作～



©Laura Stevens

曲目：

武満 徹：妖精の距離

ドビュッシー：ヴァイオリン・ソナタ

ラヴェル：弦楽四重奏曲 へ長調

ショーソン：ヴァイオリン、ピアノと弦楽四重奏のための協奏曲 二長調 作品21

新ダヴィッド同盟のメンバーで、世界を  
舞台に活躍するヴァイオリンの庄司紗矢  
香が、ベンジャミン・グローヴナー（ピ  
アノ）、モディリアーニ弦楽四重奏団とい  
う強力な共演者を得て、あまり取り上げ  
られる機会のないショーソンの傑作に挑

11月11日(土)

## 小菅 優「ソナタ・プロジェクト」 Vol.2

～人気と実力を兼ね備えたピアニスト小菅 優が挑む新たなシリーズ企画～



© Marco Borggreve

曲目：

メンデルスゾーン：幻想曲 嬰ハ短調 作品 28 〈スコットランド・ソナタ〉

ベートーヴェン：ピアノ・ソナタ 第 14 番 嬰ハ短調 作品 27 の 2 〈月光〉

シューベルト：ピアノ・ソナタ 第 18 番 ト長調 D894 〈幻想〉

新ダヴィッド同盟のメンバーでもあり、我が国を代表するピアニストの一人でもある小菅 優が「ソナタ・プロジェクト」を開始しました。Vol.2 は「夢・幻想」をテーマに、ベートーヴェンの《月光》ソナタほかを取り上げます。

12月17日(日)

## 水戸の街に響け！ 300 人の 《第九》 2023

会場：広場（雨天の場合、コンサートホール ATM）

～師走の空に、市民による合唱が響く～



一般公募の市民など 300 名を超える大合唱団が、9 月から練習を重ね、シンボルトワーの下、水戸の街に壮大な歌声を響かせるという、全国的に見ても類例のない企画です。

※令和 2 年度より新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止、昨年度は一昨年度に続き出演者等によるミニコンサートをコンサートホールで開催。今年も状況を見ながら開催の可否を検討します。

12月23日(土)

## クリスマス・プレゼント・コンサート 2023

企画・司会：池辺晋一郎

～毎年恒例！一年を締めくくる華やかなコンサート～



実力ある人気演奏家たちが集い、クリスマスの華やかな気分を盛り上げるガラ・コンサート。日本を代表する作曲家であり、水戸出身の池辺晋一郎の企画・司会でお贈りします。

## ちょっとお昼にクラシック シリーズ

～昼下がりに約 1 時間、気軽にクラシック音楽をお楽しみいただける人気シリーズ～

週末や夜のコンサートになかなか足を運べない方にも、気軽にクラシック音楽をお楽しみいただける人気シリーズ。昼下がりに約 1 時間、楽しいトークとともにクラシック音楽の魅力を凝縮した演奏会です。

4月26日（水）

菊池洋子（ピアノ）

～ウィーンを拠点に活躍する菊池洋子がお届けする“珠玉のピアノ小品集”～



モーツァルト国際コンクール優勝者であり、“現代のモーツァルト弾き”として有名なピアニストの菊池洋子が登場。新鮮な驚きに満ちた“珠玉のピアノ小品集”をお楽しみいただきます。

1月

高橋 敦（トランペット）

～輝かしい金管楽器のソロとアンサンブル～



水戸市内の中学 1 年生をコンサートホールに招く「中学生のための音楽鑑賞会」と同じ内容で、ご家族で音楽の楽しさを共有できる演奏会です。今回は MCO への参加を重ねるトランペット奏者の高橋敦を中心に、トロンボーン、ピアノの三重奏を予定しています。

3月23日（土）

宮田 大（チェロ）

～人気と実力を兼ね備えた日本を代表するチェリストが登場～



水戸室内管弦楽団メンバーとしてもおなじみのチェロ奏者、宮田 大が本シリーズに初登場。「男性の声のよう」とも言われるチェロの重厚な響きを存分にお楽しみいただきます。

### 3. 国際舞台の最前線で活躍する名演奏家たちを招聘する企画

国際舞台の最前線で活躍する当代を代表する名演奏家たちを水戸に招聘します。プログラムは、地域の皆様のご要望やその演奏家の魅力が最大限に伝わるような曲目などをリクエストして、水戸芸術館ならではのコンサート内容をご提供します。

4月16日(日)

藤村実穂子(メゾ・ソプラノ・リサイタル)

～“世界のメゾ” 藤村実穂子が5年ぶりに登場～



“世界のメゾ”として知られるメゾ・ソプラノ歌手の藤村実穂子が5年ぶりに登場。盟友であるピアニストのヴォルフラム・リーガーと共に、安らぎに満ちた美しい歌声をお届けします。

6月6日(火)

ヒラリー・ハーン(ヴァイオリン・リサイタル)

～世界で活躍中のヴァイオリニスト、ヒラリー・ハーンが10年ぶりに登場～



透徹した演奏技巧と躍動感あふれる演奏により世界で活躍中のヴァイオリニスト、ヒラリー・ハーンが10年ぶりに登場。クラシック音楽の世界に清新な風を吹き込んでいるヒラリーが、満を持してベートーヴェンの傑作に挑みます。

8月30日(水)

サイトウ・キネン・オーケストラ プラス・アンサンブル

水戸市民会館開館記念事業

会場：水戸市民会館グロービスホール(大ホール)

～世界の名手たちによるスーパー・プラスが  
新市民会館の大ホールに響き渡る～



ガボール・タルコヴィ(トランペット、元ベルリン・フィル首席)、ヨハン・シュトレッカー(バス・トロンボーン、ウィーン・フィル)など、サイトウ・キネン・オーケストラの強力なプラス・セクションの名手たちが登場。新市民会館の大ホールに華麗なプラス・サウンドが響き渡ります。

共催：水戸市民会館

11月26日(日)

## バボラーク・アンサンブル(ホルン、弦楽アンサンブル、ハープ)

～アンサンブルの愉しさ、ここに極まる～



水戸室内管弦楽団のメンバーとしてもおなじみのラデク・バボラーク(ホルン)が、故郷チェコの音楽仲間たちと結成した「バボラーク・アンサンブル」。ゲストにハープの吉野直子を迎え、アンサンブルの究極の愉しさをお届けします。

12月6日(水)

## クリスチャン・ツィメルマン(ピアノ・リサイタル)

～「今、世界で望み得る最高のピアニスト」の現在～



© Bartek Barczyk

現在、世界で最も高い評価を受けているピアニストの一人。ポーランド生まれ。1975年にはショパン国際ピアノコンクールに史上最年少の18歳で優勝。小澤征爾館長、バーンスタイン、カラヤン、ラトルなど多くの指揮者とも共演しています。水戸芸術館には4度目の登場です。

3月31日(日)

## バッハ・コレギウム・ジャパン演奏会

水戸市民会館開館記念事業 アートで応援プロジェクト

会場：水戸市民会館グロービスホール(大ホール)

～J.S.バッハが創作した人類の遺産「マタイ受難曲」を新市民会館の大ホールで聴く～



© K.Miura

共催：水戸市民会館

クラシック音楽の精華にして「人類の遺産」とも言えるJ.S.バッハの〈マタイ受難曲〉をお届けします。演奏は小澤征爾館長もその活動を賞賛するわが国を代表する古楽器オーケストラおよび合唱団のバッハ・コレギウム・ジャパンです。

日程調整中

大西順子（ジャズ・ピアノ）

～日本のジャズシーンを第一線で牽引してきたピアニストが昨年に続き登場～



長年日本のジャズ界をリードしてきたジャズピアニスト・大西順子。昨年のカルテット公演での大反響を受けて、常に進化し続ける大西順子の今を感じられる内容で、お届けします。

## カルテット・プレミアム・シリーズ

クラシック音楽の核心とも言える弦楽四重奏のさらなる普及を目指し、世界的な弦楽四重奏団を継続的に招聘するシリーズです。

11月3日（金・祝）

カザルス弦楽四重奏団

～伝説的なチェロ奏者の名を冠したスペインのカルテット～



© David Ruano

曲目：

J.S.バッハ：フーガの技法 BWV1080 より

ハイドン：弦楽四重奏曲 第36番 イ長調 作品20の6

ベートーヴェン：弦楽四重奏曲 第9番 ハ長調 作品59の3 《ラズモフスキー第3番》

20世紀の伝説的なチェロ奏者、パブロ・カザルスの名を冠したスペインのカルテット、カザルス弦楽四重奏団が登場。バッハ、ハイドン、ベートーヴェンの名曲を演奏します。

## 4. 茨城の演奏家が出演する企画

～地域の音楽文化のいっそうの発展を目指して～

6月17日（土）

### 茨城の名手・名歌手たち 第31回 出演者オーディション

～茨城から羽ばたく才能を発掘～

茨城県にゆかりのある優れた演奏家を発掘・紹介する演奏会のオーディション。1990年の開館から継続して行っているこの企画からは、全国的に活躍する演奏家も数多く輩出しており、演奏家の登竜門としても注目されています。

審査部門：鍵盤楽器、弦楽器、邦楽器（以上ソロ）、邦楽アンサンブル（2～5名まで）

10月29日（日）

### 茨城の名手・名歌手たち 第31回演奏会

司会：宮本文昭

～茨城から羽ばたく才能を広く紹介～



6月のオーディションに合格した演奏家たちが出演するガラ・コンサート。司会はMCO元オーボエ奏者の宮本文昭（オーディション審査委員）が務めます。

日程調整中

### 「茨城の名手・名歌手たち 藝文コンサート」

～茨城ゆかりの演奏家によるアットホームなコンサート～



常陽藝文ホールにおいて「茨城の名手・名歌手たち 藝文コンサート」を開催し、「茨城の名手・名歌手たち」の合格者を広く紹介します。

## 茨城の演奏家による演奏会企画

茨城県内を拠点に活動する演奏家の方々が、企画・出演する演奏会です。  
今年度は、5企画を開催します。

---

- 田中宏明（ピアノ）6月10日（土）
  - 中村真由美・中村佳代（ピアノ・デュオ）7月9日（日）
  - アンサンブル・サンク・クルール（木管五重奏）8月20日（日）
  - 茅根順子（メゾ・ソプラノ）11月5日（日）
  - コーロ・ロミー（女声合唱）時期未定
- 

## 広報誌の編集・発行

### 水戸芸術館音楽紙 VIVO（ヴィーヴォ）



演奏会情報や出演者のインタビュー、制作秘話など、学芸員ならではの視点で掲載する広報誌の編集・発行を通年で行っています。

## ラジオ番組

### 毎週日曜 7:30~8:00 Lucky FM 茨城放送 水戸芸術館 presents みんなのクラシック（ラジオ番組）



音楽部門学芸員が様々なテーマでおすすめの曲を紹介し、クラシック音楽の魅力をお届けします。

## 5. 教育普及事業

～魅力ある音楽体験をすべての世代へ～

子どもたちの発達段階に応じた音楽鑑賞プログラム、子どもたちや市民の音楽活動を支援する教育プログラム、クラシック音楽初心者の方でもお楽しみいただける入門的なプログラムなど、すべての世代に向けて、多彩なプログラムを用意しています。

### ●水戸室内管弦楽団 教育普及事業

10月20日（金）

#### 水戸室内管弦楽団 子どものための音楽会

会場：リリーアリーナ MITO（青柳公園市民体育館）

～オーケストラの生演奏を約 2,200 名の子供たちに～



主催：（公財）水戸市芸術振興財団、水戸市教育委員会

共催：（公財）げんでんふれあい茨城財団

子どもたちにオーケストラの生演奏の感動を届けたいと願い、MCO が水戸市内・近郊の小学 5 年生約 2,200 名を対象に、トークと楽器紹介を交えて音楽会を行います。18 回目を迎える今回は、第 112 回定期演奏会の開催にあわせて行います。

### 日程調整中

#### MCO セミナー・ウインズ

～MCO メンバーとセミナー受講団体の合同コンサート～



主催：（公財）水戸市芸術振興財団、茨城県

公募で選ばれた県内の管楽器アンサンブル（高校生～一般。三～八重奏）が、MCO の管楽器奏者たちのレッスンを受講し、その成果を披露していただくコンサートです。講師と受講者全員での合奏も予定しています。

2月25日（日）

## 水戸室内管弦楽団メンバーによる公開レッスン&ミニコンサート

会場：日立シビックセンター 音楽ホール

～茨城県で活動する演奏団体の演奏を MCO メンバーが指導～



共催：（公財）水戸市芸術振興財団、茨城県

MCO の管楽器奏者たちが、県内の吹奏楽団やオーケストラを指導する公開レッスンです。年ごとに県内の各地域を巡回して開催しており、今年度は県北地域を対象に、日立市で開催します。

### 日程調整中

## 水戸室内管弦楽団メンバーによる小中学生吹奏楽セミナー

～世界トップレベルの音楽家が地域の子どもたちを直接指導～



共催：水戸市教育委員会

MCO メンバーが水戸市の小中学校を訪問して、吹奏楽や金管バンドの演奏を指導します。子どもたちの演奏技術の向上、および MCO と地域との交流を目的に実施している教育プログラムです。

## ●子どもたちの発達段階に応じた音楽鑑賞プログラム

8月11日（金・祝）

### 0歳からのわくわくオルガンコンサート

～親子で楽しくコンサートホールデビューしませんか～



赤ちゃんから参加できる、小型オルガンの音楽会。子どもたちに大人気のオルガニスト・浅井美紀、そして今回は小澤征爾音楽塾出身の新進ハープ奏者、操 美穂子を迎えて、オルガンとハープのアンサンブルによる美しい音色をお贈りします。

通年（月1～2回）

### 幼児のためのパイプオルガン見学会

～楽器の王様・パイプオルガンを、楽しく体験～



市内の幼稚園、保育所（園）の幼児を対象に、パイプオルガンを気軽に楽しんでいただく企画。休館日に行っており、年間約1,400名、これまで2万人以上の子供たちが参加している人気プログラムです。

2024年1月

### 中学生のための音楽鑑賞会2024

～市内の中学生約2,000名が一流の演奏を楽しく鑑賞～



MCOのメンバーなどによる演奏とトークを通してクラシック音楽に親しんでもらう音楽鑑賞会。1992年から開催しており、毎年水戸市内の中学1年生約2,000名が参加しています。

共催：水戸市教育委員会

## ●市民の音楽活動を支援する教育プログラム

11月18日（土）

### 中学校合唱の祭典

～市内中学校の合唱コンクールの成果を披露～

市内の各中学校の合唱コンクールで最優秀に選ばれたクラスや団体が一堂に会し、その成果を披露します。コンサートは各中学校から選ばれたプロジェクト委員の生徒たちが運営します。より沢山の子どもたちに、当館のステージで演奏する楽しさを知ってもらいたいとの思いから、開催しています。

共催：水戸市教育委員会

12月

### 市内小中学校 芸術館コンサート 2023

～水戸市内の子どもたちによるステージ～

市内の小・中学校の吹奏楽、器楽合奏、合唱などの各団体による演奏会で、日頃の練習成果を発表する機会です。MCOの管楽器奏者などが演奏会に立ち会い、講評を行います。

下半期（9月～3月）

### 市民のためのオルガン講座

～国産最大級のパイプオルガンを弾いてみる～



多彩な音色を持つ、国産最大級のパイプオルガンを弾いて楽しむ講座。「実技レッスン（初級・中級）」と「一回体験」、そして昨年に新設した「演奏家育成コース」があり、講師は各地で活躍するオルガニストで、元当館音楽部門主任学芸員の室住素子が務めます。

2月

### 合唱セミナー 2024

～合唱の楽しみを広げよう～



地元の合唱愛好家の方々を対象としたセミナーです。毎回、日本を代表する合唱指揮者や作曲家を講師に迎え、課題曲を半日かけて練習します。

講師：未定

主催：（公財）水戸市芸術振興財団、茨城県合唱連盟、茨城県高等学校教育研究会音楽部、茨城県高等学校文化連盟

## ●その他の教育普及事業

通年（月2回程度）

### パイプオルガン・プロムナード・コンサート

～国産最大級のパイプオルガンを無料で楽しめるコンサート～



エントランスホールに設置された国産最大級（パイプ総数 3,283 本）のパイプオルガンの音色を気軽に楽しみいただける、週末お昼の無料コンサート。

パイプオルガン以外の楽器による「プロムナード・コンサート EXTRA（エクストラ）」も開催します。

8月12日（土）

### ぴ～すプロジェクト

### 平和作文朗読発表会とパイプオルガン・プロムナード・コンサート

～戦争と水戸空襲の記憶を若い世代に～



「戦争」と「水戸空襲」の記憶を若い世代に伝えるため、水戸市平和記念館、水戸市立博物館、水戸芸術館の3館が連携して開催するプロジェクト。当館では平和作文コンクールで優秀な成績を収めた小中学生の朗読発表とパイプオルガンの演奏をお聴きいただきます。

共催：水戸市

### 日程調整中

### 福祉施設訪問コンサート

～コンサートホールを離れて、生の演奏をお届けします～

すべての人に芸術体験の機会を提供するために、演奏家と共に福祉施設などを訪問して、生の演奏をお届けします。





演劇の持っている“力”を信じて、劇場という場所で、  
地域のみなさんを元気に、そして豊かにしていきたい！

1. 劇場の特性を活かしたオリジナル作品づくり「ACM 劇場プロデュース」
2. 誰もが楽しめる、そして伝えていきたい「伝統芸能のススメ」
3. 最先端で良質な演劇作品を紹介する「招聘企画」
4. 舞台芸術の才能を育てる「人材養成プロジェクト」
5. 楽しみながら学んでいく「アート教育プログラム」（教育普及事業）

## 1. ACM劇場プロデュース

水戸芸術館ACM劇場は、企画によって客席数を最適化し、臨場感溢れる演劇環境で、地域の皆様に興味を持っていただけるオリジナル作品を上演します。

近年は、特に次世代の子どもたちのための活動に力を入れており、地域の実情とニーズに沿ったオリジナル作品を企画しています。まさに地域と一体になって全力で取り組んでおります。

4月29日（土・祝）、30日（日）

5月2日（火）、3日（水・祝）、4日（木・祝）、5日（金・祝）

ゆうくんとマットさんの『くものすおやぶん とりものちょう』

～虫たちが大活躍する愉快的時代劇。ゴールデンウィークは親子で楽しく劇場体験！～



子どもたちに大人気の読み聞かせユニット「ゆうくんとマットさん」の舞台シリーズ。2016年に初演し好評を博した虫たちが大活躍する愉快的時代劇を、さらにパワーアップしてお届けします。

2016年の公演より

原作：秋山あゆ子『くものすおやぶん とりものちょう』（福音館書店）

脚本：Ukm3、又吉知行 構成・演出：Ukm3

出演：ゆうくんとマットさん（小林祐介・大内真智）、堀口理恵、ほしら、篠原 立

ゆうくんとマットさんの「おはなしキャリーボックス」（月1回開催・入場無料）

～ゆうくんとマットさんと一緒に、素敵な絵本の世界を楽しもう～



絵本の読み聞かせを毎月1回、水戸芸術館館内にて開催します。ご家族で楽しく過ごせる時間です。

ゆうくんとマットさんとは

東日本大震災をきっかけに、水戸芸術館専属劇団 ACM メンバーの小林祐介と大内真智が結成した絵本の読み聞かせユニット。様々な場所に出張して読み聞かせを行う「おはなしキャリーボックス」のほか、ACM劇場にて舞台公演を行っています。

7月13日（木）～17日（月・祝）※7月13日はプレビュー公演

『ファンファーレ!!』～響き続けた吹奏楽部の物語～

水戸市民会館開館記念事業 水戸芸術館連携事業 アートで応援プロジェクト vol.2

会場：水戸市民会館ユードムホール（中ホール）

～コロナ禍でも決してあきらめずに、自分たちの音楽を作り出そうと挑戦し続けた若者の物語。東日本大震災の被害から12年の歳月を経て復興を遂げる水戸市民会館のオープニングを祝います～



コロナに立ち向かった5つの吹奏楽部が描かれたオザワ部長のノンフィクション「吹奏楽部バンザイ!! コロナに負けない」の中から、水戸の高校を題材にした感動の一遍を水戸で初舞台化。コロナ禍での吹奏楽部の健闘を通して、あの時悔しい思いをした全ての人の物語として昇華させます。作品を彩る出演者には、水戸子どもミュージカルスクール出身で都内でも芸能活動をスタートさせた<sup>おぎのまろのん</sup>荻沼栄音、吹奏楽部の名門・活水高等学校出身で、園子温監督『エッシャー通りの赤いポスト』でメインキャストを勝ち取った黒河内りくをはじめ、フレッシュな才能が集結しました。さらには、舞台のクライマックスシーンで現役の高校吹奏楽部による生演奏も実現。水戸市民会館のオープニングを祝うとともに公共施設が果たす役割を担った意欲作といえます。

原作：オザワ部長『吹奏楽部バンザイ!! コロナに負けない』（ポプラ社）

脚本：井上 桂（2017.4～22.3 演劇部門芸術監督）

演出：深作健太（2015 初演、20 再演「夜のピクニック」演出）

出演：荻沼栄音、黒河内りく、田代 明、桜井木穂、鈴木咲人心

辻本みず希・富岡晃一郎

演奏出演：水戸女子高等学校吹奏学部

聖徳大学附属取手聖徳女子高等学校吹奏楽部

共催：水戸市民会館

後援：茨城県吹奏楽連盟、茨城県、茨城県教育委員会、水戸市、水戸市教育委員会

11月4日(土)、5日(日)、11日(土)、12日(日)

ACMファミリーシアター

『リトルセブンの冒険 ～白雪姫去りし後の“こびとたち”の物語～』

～子どもだけでなく大人の心にも響く舞台を！

家族で一緒に楽しめるACMファミリーシアター・シリーズ～



イラスト：タケウマ

絵本や児童文学を原作に、家族で楽しめる作品を上演してきたファミリーシアター・シリーズ。本年度は、舞台エンターテインメント界で大人気の劇団☆新感線が1999年にファミリー向けに上演した作品を取り上げます。「白雪姫と7人のこびと」の後日談として、笑いが満載でハラハラドキドキ感あふれる展開の冒険活劇です。次世代を担う劇作家・演出家の中屋敷<sup>なかやしき</sup>法仁<sup>のりひと</sup>を演出に起用して新しい「リトルセブンの冒険」を創り上げます。自身の劇団「柿喰う客」での“こどもと観る演劇プロジェクト”の活動、そしてアニメ作品の舞台化の実績からも子どもたちが楽しめる舞台になることが期待できます。地域の子どもたちに演劇の楽しさをお届けします。

作：中島かずき 脚色・演出：中屋敷法仁

出演：七味まゆ味、加藤ひろたか、齋藤明里、蓮井佑麻、佐々木穂高、田中 廉 / エリザベス・マリー、川崎賢一 / 大内真智、小林祐介、塩谷 亮

※本公演は水戸市立小学校の4年生約2,300名をACM劇場に招待して生の演劇を見ていただく「小学生のための演劇鑑賞会」として、上記日程以外にも公演を行います。(38ページに掲載)

※中屋敷氏による茨城県内の高校演劇部向けのワークショップも開催予定。

12月21日(木)～24日(日) \*12月21日はプレビュー公演  
新・未来サポート事業  
『ミュージカル水戸黄門』

～才能ある茨城の若手アーティストを紹介する連続企画の完結篇。  
いばらき大使でもある安達勇人を中心に<若き光圀の青春>を歌、アクション、  
コメディ、ダンスで彩るミュージカル作品～



『目指せ ミュージカル水戸黄門?』2022年9月の公演より

いばらき大使の安達勇人をキーマンに、茨城に縁のあるさまざまなジャンルのアーティストが一つの舞台を創っていくプロジェクト。2021年から3回にわたり、水戸黄門をミュージカルにするために奮闘する若者たちの姿を描く舞台作品を上演してきました。本年度はいよいよ『ミュージカル水戸黄門』として、若き水戸光圀の隠れた伝承に迫ります。若き光圀は史実では意外にも放蕩息子でダメな水戸藩の二代目でした。それが後年、名君とたたえられるほどの人物になったきっかけとは…。

構成・脚本：井上 桂（前演劇部門芸術監督） 構成・演出：橋本昭博（ひたちなか市出身）  
音楽監督・作曲：片野真吾

出演：安達勇人（歌手、俳優、声優・桜川市出身）、加藤良輔（歌手、俳優・水戸市出身）、  
神田真紅（講師・水戸市三の丸出身）、高根正樹（俳優、アイドル・日立市出身）、  
はなわちえ（津軽三味線奏者・日立市出身）、小林鈴勘（尺八奏者、作曲家・水戸市出身）、  
ICHI（Lockingダンサー・つくば市在住）、TAKU（HipHopダンサー・かすみがうら市出身）、  
小林祐介（劇団ACM） 他

☆茨城が誇る多彩な才能たちをご紹介します。ストリートダンサー・講師・和楽器奏者・マジシャンらの競演も大注目です。関連企画として出演者によるワークショップも開催します。

## 2. 伝統芸能のススメ

伝統芸能をたっぷり堪能できる人気企画。定期開催となっている狂言公演の他に、人気のある落語家の独演会など一年間を通して楽しめるプログラムとなっております。

---

4月15日（土）

伝統芸能のススメ [狂言]

野村万作抄 29 『花盗人』『悪太郎』

～人間国宝・野村万作と多方面で大活躍する

野村萬斎、その長男裕基による親子3代の競演～

出演：野村万作、野村萬斎、野村裕基 他

狂言の魅力が詰まった二演目に加え、

野村裕基による小舞をお贈りします。

6月3日（土）

伝統芸能のススメ [落語]

桂宮治独演会

～「笑点」大喜利レギュラー出演など大活躍中！話題満載の噺家です～



2021年2月に5人抜きでの真打昇進となり、本企画にて独演会を開催。その後はご存じ人気テレビ番組「笑点」大喜利の新メンバーに抜擢されるなど大活躍中です。

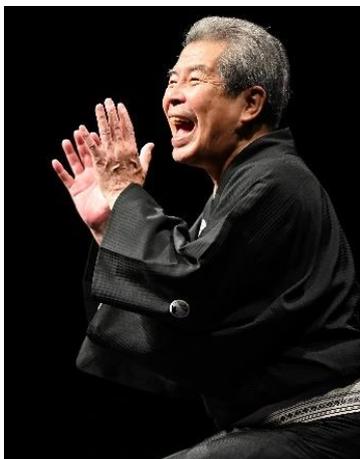
令和の爆笑王による話題満載の独演会をお見逃しなく！

6月25日（日）

伝統芸能のススメ [落語]

立川志の輔独演会

～当代随一の人気と実力を誇る立川志の輔～



常に挑戦と進化を続ける“志の輔らくご”をご堪能ください。

10月1日(日)  
伝統芸能のススメ [落語]  
柳家花緑独演会

～古典から新作まで、今年もあの歯切れのよい語り口をお楽しみに～



水戸芸術館ラインナップにはなくてはならない演者の一人で、10回目の独演会です。幅広い噺で観客を魅了する落語界のプリンスが今年もやってきます。

12月3日(日)  
伝統芸能のススメ [狂言]  
萬狂言水戸公演

～笑いの伝統芸能“狂言”の魅力を存分に堪能～



野村萬、万蔵の親子競演を今年もお贈りします。和泉流狂言の至芸をご堪能ください。

出演：野村萬、野村万蔵 他

1月7日(日)  
伝統芸能のススメ [落語]  
柳家三三<sup>さんざ</sup>独演会

～ますます磨きがかかった古典落語の名人芸～



端正な語り口で、観客をあっという間に江戸落語の世界に誘う巧みな話芸。惜しまれつつ亡くなった名人・柳家小三治の愛弟子であり、古典落語の名手・柳家三三が、今年も ACM 劇場に登場します。近年は円熟味も加わり、さらなる活躍を見せる注目の噺家の高座は必見です。

1月13日(土)  
伝統芸能のススメ [落語]  
柳家さん喬独演会

～古典落語の正統派による、円熟の話芸～



滑稽話から涙を誘う人情話まで、きめ細やかな演出で観客の心を魅了する高座はまさに江戸落語の正統派。円熟の話芸をご堪能ください。

日程調整中ですが、次の企画も上演予定です

伝統芸能のススメ [落語]  
春風亭昇太独演会

～今年も昇太ワールドをお楽しみください～



登場しただけで会場が明るくなる、今やテレビ「笑点」の、そして落語界の“顔”ともいうべき春風亭昇太。今年も昇太ワールドをお楽しみください。

伝統芸能のススメ [落語]  
ファミリー落語会

～子供たちにも落語を伝えていきたい、家族で楽しめる新企画～

若い世代にも落語に興味を持ってもらい、家族で話芸の面白さを体験してもらえる新企画です。寄席形式の上演スタイルで、初めて落語を生で聴く子どもたちに届けます。

### 3. 招聘企画

日本各地の公共劇場やプロデュース会社が製作する良質でオリジナリティの高い作品を地域の皆さまに紹介する企画シリーズ。今の時代だからこそ見逃せない企画もあれば、誰もがいつでも楽しめるような作品まで幅広く作品を紹介するよう心がけています。

演劇により時代の空気も体験できる粒揃いのラインナップです。

8月19日（土）、20日（日）

ミュージカル『カラフル』

～直木賞作家・森 絵都のベストセラー小説が原作の新作ミュージカル上演！～



直木賞作家・森 絵都による累計発行部数120万部を超えるベストセラー小説が原作の、子どもも大人も楽しめる新作ミュージカル。鈴木 福と川平慈英のほか、多彩な才能を持つ俳優たちの共演にご注目ください。  
すべての世代に贈る“モノクロだった世界をカラフル”に変えるミュージカルの魔法！

原作：森 絵都 『カラフル』（文春文庫） 脚本・作詞・演出：小林 香

作曲・編曲：大寄慶子 出演：鈴木 福、川平慈英 他

9月16日（土）～18日（月・祝）

『エブリ・プリリアント・シング』～ありとあらゆるステキなこと～

～2020年に体験型演劇スタイルで高評価を得た一人芝居がやってきます～



映画やテレビでも活躍する人気の実力派俳優・佐藤隆太による一人芝居。ジャズやロックの名曲をモチーフに取り入れ、生きづらさを覚える現代人を温かく励ましながら進行するストーリーは、観る人に明日への希望を与えてくれます。

作：ダンカン・マクミラン、ジョニー・ドナヒュー 演出：上田一豪

出演：佐藤隆太

10月27日（金）、28日（土）

## 木ノ下歌舞伎『勸進帳』

～各界の注目を集める木ノ下裕一率いる木ノ下歌舞伎が水戸芸術館に初登場！



木ノ下歌舞伎『勸進帳』（2016年）

撮影：井上嘉和 提供：KYOTO EXPERIMENT 事務局

監修・補綴：木ノ下裕一 演出：杉原邦生

出演：リー5世 他

深い見識と鋭敏な感性で古典を現代に鮮やかに蘇らせて、各界の注目を集める木ノ下裕一率いる木ノ下歌舞伎。パリにも招聘された本作にて当館に初登場。今やエンターテインメント作品に引っ張りだこの人気演出家となった杉原邦生とのコンビによる名作。

3月5日（火）、6日（水）

## 舞台『大誘拐』

～抱腹絶倒の大誘拐劇の舞台化、最高にして究極の顔合わせが実現！～



原作：『大誘拐』天藤 真（創元推理文庫刊）

脚本・演出：笹部博司

ステージング：小野寺修二

出演：白石加代子、風間杜夫、柴田理恵 他

映画化もされた天藤 真の有名な原作を舞台化します。身代金も桁違い、破格すくめの斬新な展開が無上の爽快感を呼ぶ、抱腹絶倒の大誘拐劇をお楽しみいただきます。

## 4. 人材養成プロジェクト

地域の実演家たちを紹介して応援してきた15回目を迎える“未来サポートプロジェクト”に加えて、新しいプロジェクトも立ち上げます。舞台芸術の若き才能を育てていくカテゴリーに位置付けて取り組んでいきます。舞台作品の創造および発表の機会を提供し、その人材の育成と輩出に貢献していきます。

10月15日（日）

### リーディングプロジェクト

～若手演出家の注目株である大澤 遊との作品づくりがスタート～



作：W.シェイクスピア『ロミオとジュリエット』

演出：大澤 遊

演出家やクリエイティブスタッフも含めた人材の養成を目指すプロジェクトの第1弾。取り上げる戯曲をリーディング・スタイルで上演し作品発表をします。今回は当劇場にて数々の作品で演出助手を務めた後、演出家デビューした大澤 遊を起用し、シェイクスピア作品を取り上げます。

1月28日（日）

### 未来サポートプロジェクト vol.15

#### <根本紳平特集>

～水戸市出身の舞踊家・パフォーマー・振付家の根本紳平を広く紹介～



茨城県に縁のある若い才能を紹介、支援する当企画。今回は小学生の頃から当館教育普及事業に参加し、現在は舞踊家・振付家として活躍する水戸市出身の根本紳平に焦点を当て、所属するダンスカンパニー「水中メガネ∞」の公演やワークショップを行います。

（左）ファミリーシアター『スーホの白い馬』2022年11月の公演より

振付：根本紳平 他

※9月にはワークショップを予定

## 5. 教育普及事業

### ～楽しみながら学んでいく「アート教育プログラム」～

ACM劇場は演劇を中心とした舞台芸術を鑑賞する場所としてだけではなく、地域のさまざまな年代の市民の“学びの場”としての役割も長年務めてきました。参加する方の可能性を伸ばしていきながら、楽しんで学んでいくという人気の学習・体験レッスンです。一日完結から数日間の短期スタイル、さらには年間を通じて学んでいき、最後に発表会を行う長期スタイルまで、さまざまな教育プログラムをご用意しています。

### 朗読スタジオ

5月～7月 “子ども向けコース・しっかりした声で伝える物語”（小学4～中学3年生）

“朗読基礎コース”（高校生以上）

9月～2024年2月 “発表コース”（高校生以上）2月12日（月・祝）発表公演

講師：壤 晴彦（俳優、演出家、演劇倶楽部『座』主宰）、相澤まどか 他

～美しい日本語をみつめなおし、声に出して、共に学ぶ～



2023年2月公演より

11年目を迎えた今年は3か月間の“子ども向けコース”、初心者向けの“朗読基礎コース”も設定してより幅広く受講生を受け入れます。

9月からの発表コースでは、来場されるお客様にも納得のいくパフォーマンスを目指します。日本を代表する演劇人・壤 晴彦による情熱をこめた指導がたいへん好評で、リピートする受講生もいます。

### 水戸子どもミュージカルスクール

5月～7月 基礎コース 3クラス（全10回）

9月～2024年3月 発表公演コース（3月23日（土）、24日（日）発表公演）

講師：高城信江、大内真智（劇団ACM） 他

～学年、学校を越えた仲間たちとともに歌って踊って演じてミュージカルを学ぼう～



2023年3月公演より

小学4年生から中学3年生がミュージカルを学ぶ人気のスクール。今年度で11回目となります。今年は夏までの基礎コースを新たに設定。連続レッスンですが単発での参加も可能にして、幅広く子どもたちに体験してもらいます。従来の発表公演を目標とするコースは9月にスタートします。

## ●地域交流プログラム

7月29日(土)

『Pohádky』ポハートキィ=おとぎ話

～人形劇の本場チェコを拠点に活躍する沢則行によるソロ公演+ワークショップ～



©Lize Puppet Art Colony  
出演：沢 則行

チェコを拠点に世界的に活躍する人形師・沢則行のソロパフォーマンス。さらに子どもたちとの人形劇体験のワークショップも開催。読み聞かせでお馴染みの“ゆうくんマットさん”も一緒にお手伝いします。夏休みの思い出づくりに、子どもたちに大注目の週末です。

関連企画 講師：沢 則行

7月29日(土)

「影絵ワークショップ」



7月30日(日)

「箱の人形劇ワークショップ」



©OPEN ART, z.s.

体験型ワークショップ

『伝わる声の作り方』(年数回)

～発声の基本から丁寧に指導 日常生活にも役立つ声の講座～



講師：塩谷 亮(劇団 ACM)

楽しみながら声を磨くワークショップ、毎回満員御礼の人気企画です。専属劇団ACMの劇団員による、俳優のセリフ術や訓練を活用して、日常生活にも役立つ豊かな言葉の表現を体験していきます。楽しみながら学ぶ講座です。

## 『プレイルーム』

～小学生低学年を対象にした創造力を育てる遊び場～



ワークショップ・トライアルとして昨年に実施した「プレイルーム」。今回は“深海の未知との SO GOOD!”と題して、深い海の底の未知の生物をみんなで想像して創りました。今年も子どもたちの“あそびゴコロ”を芽吹かせます。

進行役：≠まともくん（大内真智 劇団ACM）

## 『若手演出家等による交流ワークショップ』

～若手クリエイターと地域の人たちとの出会いの場～



公演事業や人材養成事業にて水戸に滞在する若手クリエイターたちと表現することに興味を持つ市民との出会いの場をつくりだします。まさに地域の交流ワークショップとして楽しんでいただきます。

中屋敷法仁

講師：中屋敷法仁、根本紳平、大澤 遊 他

11月7日（火）～9日（木）、14日（火）～16日（木）

小学生のための演劇鑑賞会

『リトルセブンの冒険 ～白雪姫去りし後の“こびとたち”の物語～』

～水戸市立小学校の4年生全員がACM劇場で観劇～



イラスト：タケウマ

共催：水戸市教育委員会

水戸市立小学校の4年生約 2,300 名を ACM 劇場に招待して生の演劇を体験してもらう企画。単なる芸術鑑賞ではなく、劇場マナーなども学び社会性も身に付ける場も目指して実施。市立以外の小学校にも体験してもらい、確実に演劇鑑賞のすそ野を広げていきます。



現代美術センターは、地域の人びととの連携を広げ、子どもからシニアまで幅広い層のさまざまな人びとが〈みる〉、〈つくる〉、そして〈対話する〉ことを身近に楽しめる場をつくっていきます。想像力にあふれ独創的なアーティストたちは、時代の状況を敏感に感じながら、多様な価値観や視点を示し、芸術を通して私たちに語りかけます。

### 1. 展覧会事業

#### 1-1. いま注目のアーティストによる個展

アーティストの視点を通して今の社会について考えるテーマ展

MitoriO 3 館連携企画展

#### 1-2. 若手作家を新作中心に紹介する個展シリーズ「クリテリオム」

### 2. 地域連携プロジェクト

地域の方々とともに、〈つながり〉をつくり〈地域〉を見つめ直す

### 3. 教育プログラム

さまざまな年齢層とコミュニティに向けて、現代美術の楽しみを伝える

# 1. 展覧会事業

## 1. いま注目のアーティストによる個展

### アーティストの視点を通して今の社会について考えるテーマ展

美術部門の事業の核となるのが、現代美術の多様な表現を引き立てる磯崎新設計の展示空間で展開する企画展です。当代を代表するアーティストの個展から、近年の目覚ましい活動が注目されるアーティストによる初の美術館個展、そして同時代の社会に呼応したテーマ展まで、選りすぐりの国内外のアーティストの作品を紹介します。

4月1日（土）～5月7日（日）

ケアリング/マザーフード：「母」から「他者」のケアを考える現代美術  
～生きる上で誰もが直面する「ケア」の依存と受容。現代美術が問う、その葛藤の意味とは？～

社会の根幹に位置づけられるべき概念でありながら、影の存在となってきた「ケア」とその担い手に光をあてる展覧会です。絵画、映像、写真、インスタレーションなど多彩な作品の展示や、参加型の関連プログラムを実施。わたしたちと同時代を生きる国内外のアーティストの視点を通してケアを「ひとり」から「つながり」へとひらきます。



本間メイ《Bodies in Overlooked Pain》 2020年

出品作家：青木陵子、AHA! [Archive for Human Activities / 人類の営みのためのアーカイブ]、石内 都、出光真子、碓井ゆい、ラグナル・キェルタンソン、二藤建人、マリア・ファアラ、リーゼル・ブリッシュ、ホン・ヨンイン、本間メイ、ヨアンナ・ライコフスカ、マーサ・ロスラー、ミエレル・レーダーマン・ユケレス、ユン・ソクナム

#### 作家略歴：

青木陵子（1973年兵庫県生まれ、京都府を拠点に活動）  
AHA! [Archive for Human Activities / 人類の営みのためのアーカイブ]（2005年から活動）  
石内 都（1947年群馬県生まれ、同県と東京を拠点に活動）  
出光真子（1940年東京都生まれ、同都を拠点に活動）  
碓井ゆい（1980年東京都生まれ、埼玉県を拠点に活動）  
ラグナル・キェルタンソン（1976年アイスランド生まれ、同国を拠点に活動）  
二藤建人（1986年埼玉県生まれ、同県を拠点に活動）  
マリア・ファアラ（1988年フィリピン生まれ、英国を拠点に活動）  
リーゼル・ブリッシュ（1987年デンマーク生まれ、デンマークとドイツを拠点に活動）  
ホン・ヨンイン（1972年韓国生まれ、英国を拠点に活動）  
本間メイ（1985年東京都生まれ、同都とインドネシアを拠点に活動）  
ヨアンナ・ライコフスカ（1968年ポーランド生まれ、同国と英国を拠点に活動）  
マーサ・ロスラー（1943年米国生まれ、同国を拠点に活動）他  
ミエレル・レーダーマン・ユケレス（1939年米国生まれ、同国を拠点に活動）  
ユン・ソクナム（1939年旧満州国 [現中華人民共和国] 生まれ、韓国を拠点に活動）

企画：後藤桜子（水戸芸術館現代美術センター学芸員）

7月22日(土)～10月9日(月・祝)

## アートセンターをひらく 2023—地域をあそぶ

水戸市民会館開館記念事業

会場：水戸芸術館現代美術ギャラリー、水戸市民会館、京成百貨店 他

### ～MitoriOの3館連携。創作と交流が生まれる展覧会～

隣に新しく水戸市民会館が開館する門出を祝って、「地域」と「あそぶ」をテーマに当館から水戸市民会館、京成百貨店、そして周辺地域へとつながる展示とアートプロジェクトを行います。

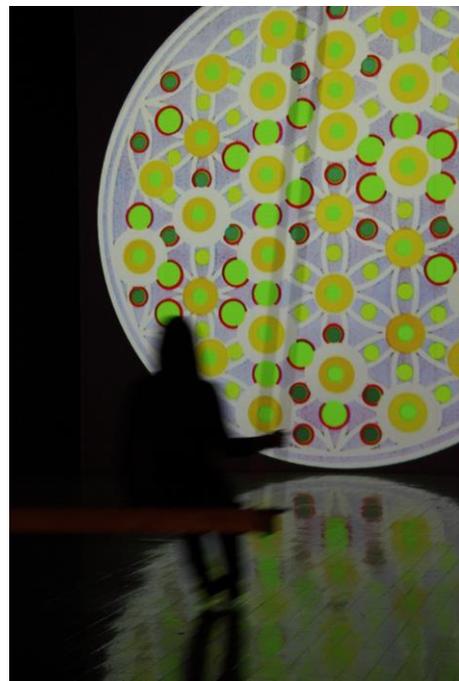
本展では新しいアートを創造してきた当センターの特徴をふまえ、ギャラリーを「アートが生まれる場」と捉え直し、展示に加えて創作や交流がおこっていく場として設定します。アーティストのみならず来場者も創作を楽しんだり、プロジェクトに参加したり、本を読んだりと思いおもいに過ごせる場としての機能も担います。「展示」と「創作」の双方を一度に体験でき、また創作によって状況が変わっていく、新しい何かが生まれるアートセンターを体現し、かつMitoriOの連携によって中心市街地と当館との往来を促します。

出品作家：

一ノ瀬 彩・久野靖広(茨城大学工学部都市システム工学科)＋山田協太・加藤 研(筑波大学芸術系) [監修：貝島桃代(アトリエ・ワン、ETHZ) / アドバイザー：稲用隆一(茨城大学工学部都市システム工学科)、平井政俊(平井政俊建築設計事務所)]、KITA、曾谷朝絵、日比野克彦、remo [NPO 法人 記録と表現とメディアのための組織]

コレクションより：

川俣 正、ゲルダ・シュタイナー&ヨルク・レンツリンガー、蔡國強、曾根 裕、チョン・ヨンドウ、椿 昇+室井 尚



上左) 曾谷朝絵《鳴る色》2021 新山口駅

Photo: Satoru EMOTO, SARUTO Inc.

上) ゲルダ・シュタイナー&ヨルク・レンツリンガー  
《美の論理》2012 展示風景 撮影：木奥恵三

左) 「アートセンターをひらく 第I期」2019での  
「ひらくカフェ」の様子 撮影：松本美枝子

共催：水戸市民会館

企画：竹久 侑(水戸芸術館現代美術センター芸術監督)

11月3日(金・祝)～1月28日(日)

## 今村 源 展

会場：水戸芸術館現代美術ギャラリー、エントランスホール

### ～浮遊感あふれる彫刻を作る現代美術家の個展～

今村 源は、普段、気にも留めないありふれたものに、少しの隙間を加える、あるいは天地を入れ替えたり裏返したりすることで、ユーモラスな造形でありつつも、その軽く透明感のあるイメージから一転、日常と表裏一体にある深遠な世界を観る人に想起させる作風で広く知られています。ボール紙、発泡スチロール、石膏、針金やビニールなど、およそ彫刻らしからぬ軽い素材で、浮遊感溢れる「彫刻」を制作してきた今村の作品の根源には、彼が関心を寄せる森の地下に菌糸を張り巡らし、ときおり地上に姿を顕すキノコの世界への関心があります。人間には見えない世界で、しかし確実に世界と共生し、世界を支えている菌類へと向けられた今村の思索は、私(個)を超えて連綿と続く生命の営みへと広がっていきました。本展は、1980年代前半より京都を拠点に制作活動をスタートさせ、いずれにも寄らない独自の哲学的作風で早くから注目を集めてきた現代美術家・今村 源の10年ぶりとなる美術館の個展となります。



左) 《きせい・キノコ》リボン アート・フェスティバル 2019、  
牡鹿半島、宮城



右) 《1997-7》「森ニイマス」1997年、宇都宮美術館、栃木

### 作家略歴：

今村 源 (いまむら・はじめ) 1957年大阪生まれ、京都在住。81年に京都市立芸術大学美術学部彫刻科を卒業、83年に同大学大学院美術研究科彫刻専攻を修了。関西を中心に活動し、カラーワイヤーを使った平面作品や版画、針金で個々の彫刻がつながり合うインスタレーションなど、日常にあるありふれたものを用いて制作を行う。ユーモラスな形態をとりながら哲学的な作品は、日常と表裏一体にある深遠な世界を見せる。近年の個展に、「流れること/留めること」(ギャラリーノマル、大阪、2021年)、「バラバラバラ」(ARTZONE、京都、2018年)。展覧会に、「疎密考」(和歌山県立近代美術館、2021年)、「TADのベスト版 コレクション+ あなたならどう見る？」(富山県美術館、2020年)、「起点としての80年代」(金沢21世紀美術館、2018年/高松市美術館、2018年/静岡市美術館、2019年)、「東アジア文化都市 2017 京都 アジア回廊 現代美術展」(元離宮二条城/京都芸術センター、2017年)などがある。第35回中原悌二郎賞優秀賞(2007年)、第28回京都美術文化賞(2015年)を受賞。作品は国立国際美術館、伊丹市立美術館、兵庫県立美術館、和歌山県立近代美術館などに収蔵されている。

企画：井関 悠 (水戸芸術館現代美術センター主任学芸員)

2月17日(土)～3月31日(日) ※会期:5月6日(月・振休)まで  
須藤玲子 NUNOの布づくり

～布づくりへの新たな視点と革新。茨城県出身のテキスタイルデザイナー須藤玲子による個展～

茨城県石岡市出身のテキスタイルデザイナー須藤玲子と、須藤が率いるテキスタイルデザイン・スタジオNUNOの活動を紹介する展覧会。日本各地の職人・工場との協働作業や、素材の可能性を広げる須藤の多岐に渡る取り組みについて、音と映像を交えたインスタレーションで展覧します。また、当館現代美術ギャラリーの空間を活かし、近年須藤が精力的に取り組む大型インスタレーションも展示予定です。



上左、左) 展示風景:「Sudō Reiko: Making NUNO Textiles」CHAT (Centre for Heritage, Arts and Textile)、香港、2019-2020年

右) 須藤玲子&アドリアン・ガルデル 《このほり》2008/2019年  
展示風景:「Sudō Reiko: Making NUNO Textiles」CHAT (Centre for Heritage, Arts and Textile)、香港、2019-2020年

#### 作家略歴:

1953年茨城県石岡市生まれ。84年以來、テキスタイルデザイン・スタジオNUNOのデザインディレクターを務める。日本の伝統的な染織技術と最先端の製造技術を融合し、絹・手漉し和紙のスリット・ヤーンや熱可塑性プラスチックといった異素材を組み合わせた独自のテキスタイルを探究してきた。これまでに手掛けた布は3,000点に及ぶ。

2008年より良品計画、山形県鶴岡織物工業共同組合、株式会社アズほかのデザインアドバイスを手がける。毎日デザイン賞、ロスコー賞、JID部門賞等受賞。23年には、伝統に根ざしながら独自の芸術を創造する芸術家を顕彰する「円空大賞」を受賞し、岐阜県美術館で大規模なインスタレーションを発表した。

国立新美術館、岐阜県美術館、茨城県近代美術館ほか国内の展示多数。また、その作品はニューヨーク近代美術館、メトロポリタン美術館、ビクトリア&アルバート博物館、東京国立近代美術館などに収蔵されている。

企画:高橋瑞木(CHATエグゼクティブディレクター兼チーフキュレーター)

企画担当:後藤桜子(水戸芸術館現代美術センター学芸員)

## 2. 若手作家を新作中心で紹介する個展シリーズ「クリテリオム」

「クリテリオム」シリーズでは、若手作家と当館学芸員との協働で、新作中心の展覧会を作り上げます。開館2年目の1992年から続く本シリーズは、新進作家を個展形式で紹介する先駆的な取り組みとして当初から注目され、のちに日本を代表することになるアーティストをこれまで多く輩出してきました。若手作家のキャリア早期において重要な役割を果たしてきた本シリーズの100回目を実施します。

2月17日（土）～3月31日（日） ※会期：5月6日（月・振休）まで  
クリテリオム 100

～今後の活躍が期待される新進作家による新作中心の個展～

作家選考中

企画：畑井 恵（水戸芸術館現代美術センター学芸員）

## 地域連携プロジェクト

多様なかたちをもつ現代美術は、ときに展示空間を飛び出し参加型のプロジェクトとして、人と人が出会い、つながる場を開いてきました。現代美術センターでは地域の方々と連携し、地域についてともに見つめ直すアートプロジェクトを実施しています。

5月～11月

日比野克彦「明後日朝顔プロジェクト2023 水戸」

5月20日（土） 苗植え・ウッドデッキペイント

11月11日（土） 収穫祭 ※いずれも翌日天候予備日

会場：水戸芸術館2階回廊を拠点に、水戸市民会館と京成百貨店でも実施

～朝顔の育成を通して、人と人、人と地域、地域と地域がつながる～



2005年に当館で開催した「日比野克彦の一人万博」展を機に、新潟県十日町市筋平から水戸に渡った「明後日朝顔プロジェクト」は人と人、人と地域をつなぎます。今年の水戸市民会館も加わり、初めてMitoriOの3館連携で実施し、4年ぶりにウッドデッキ全面のペイントも行います。

共催：明後日朝顔プロジェクト水戸実行委員会、水戸市民会館、(株)水戸京成百貨店

9月30日(土)

日比野克彦「HIBINO CUP」

会場：水戸芸術館広場

～工作とスポーツが一緒に楽しめる！ 日比野克彦発案のアートイベント～



日比野氏の示すテーマにそって、チーム毎にゴールとボール、ユニフォームを制作し、それらを使って独自のミニサッカーで競い合います。サッカーの勝敗だけでなく制作の創意工夫も表彰の対象に。親子や友人同士でお楽しみいただけます。

共催：HIBINO CUP実行委員会

※新型コロナウイルス感染症の状況によっては、接触の伴うサッカーではない形式で実施する場合がございます。

### 3. 教育普及事業

～さまざまな年齢層とコミュニティに向けて、現代美術の楽しみを伝える～

現代美術の楽しみを伝えるための活動をアーティストや市民とともに行います。現代美術が示す多様な価値観は、これまでの考え方が揺らぐ時代に思索の時と場を提供します。また、創造と想像の喜びは日常をより豊かなものにします。市民のみなさんからの声から工夫をしながら、さまざまな年齢層、コミュニティにプログラムを提供します。

#### ●高校生ウィーク（4月・3月）

～高校生を中心とした多世代が美術館活動に触れ、多様な価値観に出会う企画～



2018年 会場風景

春休み期間にあわせて開設してきた、来場者がどなたでも利用できる恒例の交流スペース。

高校生と大人を対象としたアーティスト・ワークショップ、市民主導の部活動も実施します。「須藤玲子 NUNOの布づくり」展会期中の開催です。

#### ●造形実験室（月2回）

～毎月、異なる素材や技法で造作を楽しむ集いの場～



2022年11月の様子

さまざまな素材をテーマに造形を楽しむ企画。「うまく」「上手に」にこだわらない、集う人の交流の場として、市民ボランティアとともに定期的開催します。

## ●アーティスト・ワークショップ（通年）

～アーティストのアイデアに触れながら、もの作りを楽しみ、日常を楽しむ創造力を磨こう～



「秋のこらぼ・らぼ」2019年の様子



「こども・こらぼ・らぼ」2022年の様子 撮影：仲田絵美

展覧会にあわせて企画するアーティストによるワークショップをはじめ、ものを作り、考えを共有するワークショップを行います。多様な視点を示すアーティストの価値観に触れながらものを作ることは、心の開放にもつながり、また日常を楽しむアイデアをもたらします。

### ① Ph.D. (フッド) ワークショップ 5月4日(木・祝)、5日(金・祝)



デザインスタジオ Ph.D.によるワークショップ「時をかさねるクッション」では、特殊な素材の布を利用して、中が見えるクッションを制作。思い出の品を潜ませるほか、靴下工場の残糸を利用したアップサイクルな作品をつくります。また、思い出の布地をパンチング技法で1枚の布にしたてる「かさねてつながる布づくり」も実施します。

### ② 「夏のこらぼ・らぼ」(8月)



「こども・こらぼ・らぼ」2022年の様子 撮影：仲田絵美

2011年の夏より続く、毎年夏休み期間にお届けするワークショップイベント。開催中の「アートセンターをひらく2023」展に出品している曾谷朝絵氏他を講師に迎え、こどもも大人も楽しめるワークショップを開催します。

## ●アートとケアをむすぶプログラム「ブリッジ」

～誰もが現代美術に親しむためのプログラム～



聴覚に障害のある方たちとの鑑賞プログラム「美術と手話」 2020年の様子

誰もが美術に親しめるよう、さまざまなプログラムを実施します。障害がある人との鑑賞ツアーや、安心して未就学児と作品を鑑賞できる企画を実施します。また高齢者施設や福祉の専門学校など、ケアの現場との連携をはかり、来館を促します。

### ① 「視覚に障害がある人との鑑賞ツアー session！」(12月)



2022年の様子 撮影：佐藤理絵

※この取組は2021年度から中学3年生の道徳の教科書（光村図書版）に掲載されています。また、2022年度本屋大賞ノンフィクション本大賞を受賞した『目の見えない白鳥さんとアートを見にいく』（川内有緒著）や映画『目の見えない白鳥さん、アートを見にいく』（監督：三好大輔、川内有緒）をはじめ、白鳥氏の活動は多くのメディアで紹介され、見えない人との鑑賞活動は広く注目を集めています。

水戸市に住む全盲の美術鑑賞者・白鳥建二氏がナビゲーターを務める、見える人と見えない人が対話しながら作品を鑑賞するツアー。障害の有無に関わらず、居合わせた人同士が奏でるコミュニケーションを楽しみます。本年度は今村 源展で実施します。

### ② 赤ちゃんと一緒に美術館散歩 (4月、5月、11月)



2016年の様子

乳幼児とその保護者が安心して参加できる展覧会鑑賞ツアーが復活します。参加者のペースに添って、展覧会をご案内、乳幼児ケアのサポートをいたします。担当するのは館内係員 ATM フェイスと市民ボランティアの皆さんです。

## ●ボランティア・プログラム（通年）

～来館者と現代美術をつなぐさまざまなプログラム。幅広い年齢層や多様なバックグラウンドをもつ市民の関わりが、作品の見方や活動を広げます。～

### ① 「CAC ギャラリートーカー」による対話型鑑賞プログラム（通年）



市民ボランティア「CAC ギャラリートーカー」による対話型鑑賞のギャラリートークを実施します。災害や戦禍をはじめ、一つの正解を導けない課題を多く抱える現代、作品の前で私たち一人ひとりが感じ、考え、他者と対話を交わす時間と空間はますます重要になっているでしょう。

### ② 造形ボランティア（通年）



「造形実験室」を中心に館の内外で、作ることの楽しさを味わいながら、参加者の造形活動を支えるボランティア活動です。素材や人との出会いを楽しむ場所や関係づくりを促進します。

### ③ 乳幼児ケアサポート（通年）



館内係員 ATM フェイスの有志チームと一緒に、来館する乳幼児や保護者のケアを担う市民ボランティアです。それぞれのバックグラウンドを生かした多様なかわり得、豊かな美術館時間を創出します。

#### ④ 交流「カフェ」スタッフ（4月、7月～10月、3月）



「高校生ウィーク」及び「アートセンターをひらく 2023」の関連企画として、造作と交流が営まれる場の運営をします。

#### ⑤ バッタ復活ボランティア（9月）



当センターの所管作品、椿昇×室井尚《飛蝗（プロジェクト・インセクト・ワールド）》（2001年）の展示をサポートする活動。市民の力を借りて、全長50mに及び愛らしい巨大バッタを復活させます。

#### ● 「アーティストキット」の販売（通年）



徳本萌子「光の糸で葉っぱと古紙を縫う」



松原容子「自分定規」の制作の様子 撮影：仲田絵美

アーティストとともに開発した、家庭で制作を楽しめるアーティストキットの販売を今年も継続します。2020年の開始以来1000個以上が販売され、好評を博してきました。お好きな場所で、お好きな時間に、お好きな仲間と…創作の機会を提供します。

## ●見える化アーカイブ（通年）



「視覚に障害がある人との鑑賞ツアー session！」2019年

当センターの特徴ともいえる好評のプログラムをわかりやすく紹介するウェブサイト・ページを作成し、その魅力を多くの人びとに伝えます。今年度は「視覚に障害がある人との鑑賞ツアー session！」他を取り上げる予定です。

## 地域共催事業

### 1. 第54回水戸市芸術祭

水戸市民による芸術の祭典「水戸市芸術祭」。今年度は、26プログラムのうち10プログラムを水戸芸術館で開催し、約3ヶ月にわたり多数の市民が参加して日頃の活動の成果を披露します。

主催：水戸市文化振興協議会、水戸市、水戸市教育委員会、（公財）水戸市芸術振興財団、茨城新聞社

5月19日（金）～21日（日）

#### いけばな展

会場：現代美術ギャラリー

出品流派：龍生派、古流松應会、花芸安達流、広山流、池坊、小原流、草月流、古流松藤会

5月30日（火）～6月9日（金）、6月14日（水）～25日（日）

#### 美術展覧会

第1期：日本画・洋画・彫刻・工芸美術（5月30日～6月9日）

第2期：書・写真・デザイン・インスタレーション（6月14日～25日）

日本画や洋画、書、写真など幅広いジャンルにわたり、多数の応募作品の中から選ばれた力作を2期に分けて展示します。

会場：現代美術ギャラリー

出品者：水戸市民による公募

6月11日（日）

#### 三曲各流演奏会

琴、尺八、三味線の演奏会です。社中合同の演奏会や現代曲を邦楽にアレンジしたものなど多彩なプログラムを披露します。

会場：ACM 劇場

出演：生田流、山田流、琴古流、新都山流

6月18日（日）

#### 謡と仕舞の会

劇場内の能舞台上で、各流派による素謡、連吟、仕舞のほか鼓や笛の公演を行います。

会場：ACM 劇場

出演：観世流、金春流、宝生流 他

**7月9日（日）**

### **バレエフェスティバル**

バレエ教室に通う幼稚園児から高校生までの子どもたちが、日頃のレッスンの成果を披露します。

会場：ACM 劇場

出演：シオンバレエ

**7月15日（土）、16日（日）**

### **市民音楽会**

市内で音楽活動している団体がピアノやギター、オカリナなど多彩な楽器演奏を行います。

会場：コンサートホール ATM

出演：水戸市内の音楽団体

**8月13日（日）**

### **ジュニアオーケストラ演奏会**

小学生から高校生までの子どもたちで編成された、40年以上の歴史のあるオーケストラが、大人顔負けの熱演を披露します。

会場：コンサートホール ATM

出演：水戸ジュニアオーケストラ

**8月下旬～9月上旬**

### **演劇フェスティバル**

市内を中心に活動する劇団が2週にわたってそれぞれの持ち味を活かした演目を披露します。

会場：ACM 劇場

出演：茨城大学演劇研究会、キミトジャグジー

**8月27日（日）**

### **交響楽演奏会**

県内の音楽愛好家が中心になって創立し、50年以上の歴史をもつオーケストラ、「茨城交響楽団」による演奏をお楽しみいただきます。

会場：コンサートホール ATM

出演：茨城交響楽団

## 2.その他の地域共催事業

エントランスホールや劇場、コンサートホールにて、地域の人々と協力して行う事業や、地域の子供たちが参加する様々な事業を行います。

6月～7月

### 水戸の梅まつり 写真コンテスト入賞作品展

水戸の梅まつり期間中に偕楽園・弘道館公園内で撮影された写真コンテストの入賞作品を展示します。

会場：エントランスホール

主催：水戸の梅まつり実行委員会、茨城県カメラ商組合

10月7日（土）、8日（日）

### 日本映画が好き 2023+第38回水戸映画祭

邦画の名作をお贈りする『日本映画が好き』、水戸ではあまり鑑賞する機会の少ない話題作を上映する『水戸映画祭』。映画ファン必見のイベントです。

会場：ACM 劇場

主催：NPO 法人シネマパンチ、水戸映画祭実行委員会

10月

### 花の絵コンクール作品展

水戸市住みよいまちづくり推進協議会が中心となって開催している「花いっぱい運動」の一環として公募した絵画作品の展覧会です。保育所（園）、幼稚園児及び小・中学校の児童、生徒の優秀作品を展示します。

10月

### 「家庭の日」絵画・ポスターと作文展

明るい家庭づくりの推進や毎月第3日曜日の「家庭の日」を周知する絵画やポスター、作文を展示します。

会場：エントランスホール

主催：水戸二中学区青少年育成会

10月

### 水戸黄門まつりフォトコンテスト入賞作品展

水戸黄門まつりで撮影された写真の優秀作品を展示します。

会場：エントランスホール

主催：水戸黄門まつり実行委員会

2024年2月

### 大手橋プラムコンサート

地元の市立第二中学校及び三の丸・五軒・柳河各小学校の吹奏楽部、合唱部等による合同の演奏会を開催します。

会場：コンサートホール ATM

主催：大手橋プラムコンサート実施委員会

1月～3月

### 各種大会受賞記念小中学校演奏会

吹奏楽コンクール等で優秀な成績を収めた吹奏楽部などが受賞を記念して開催するコンサートです。

会場：コンサートホール ATM

2月

### 水戸・高松親善都市 児童生徒美術展覧会

水戸市と高松市の交流を図るため、両市の児童生徒が描いた作品を展示します。

会場：エントランスホール

主催：水戸市、高松市、水戸市教育委員会

## 3.広場での催事

街の中の憩いの広場として、賑わいをもたらす市民参加の音楽会や各種イベントなどを地域の団体や人々と協力して行います。

通年

### 水戸芸術館ライトアッププロジェクト

2016年10月よりスタートした、水戸芸術館のライトアップ企画。塔とカスケード（噴水）に、季節や時間などによって変化するさまざまなプログラムを施し、鮮やかな光のアートを生み出します。

5月、6月、10月、11月の第4土曜日

### アートタワーマーケット

リサイクル品や、アマチュア作家によるクラフト品を中心としたフリーマーケットです。

主催：アートタワーマーケット実行委員会

**5月、6月、9月、10月の第4金曜日**

### **茨城県警察音楽隊「金曜コンサート」**

茨城県警察音楽隊による吹奏楽コンサート。クラシック、ポップス、フォークなど幅広いレパートリーで子どもからお年寄りまで気軽に楽しめるコンサートです。

主催：茨城県警察音楽隊

**5月～6月**

### **水戸デザインプロジェクト**

地元の文化デザイナー学院の生徒による作品制作と公開競技会を行います。

主催：（学）リリー文化学園専門学校 文化デザイナー学院

**5月～11月**

### **日比野克彦「明後日朝顔プロジェクト2023 水戸」苗植え・収穫祭**

### **日比野克彦「HIBINO CUP」**

※詳細は、美術部門事業概要（P.44～45）をご覧ください。

**5月28日（日）**

### **アカペラフェスティバル in 水戸 2023**

県内外からアカペラグループが集まり、自慢の歌声を披露します。

主催：アカペラフェスティバル in 水戸 実行委員会

**7月15日（土）**

### **五軒サマーナイトコンサート&ふれあいまつり**

地元の五軒地区の夏の音楽祭。幼稚園児から小・中・高校生、市民のコーラスグループ、水戸太鼓保存会など各種音楽団体が広場ステージで演奏します。

主催：ふぁいぶたうんコミュニティ

**8月**

### **24時間テレビチャリティーイベント**

主催：ボランティア任意団体 ROOT

**9月23日（土・祝）**

### **水戸野外映画上映会**

秋の夜空の下、特設大スクリーンでご覧いただく野外上映会。開放的な空間とゆったりと流れる時間…大人から子どもまで楽しめるアットホームな映画とともにのんびりとお過ごしください。

主催：水戸クリエイティブウィーク実行委員会

9月24日(日)

**水戸 雅 千人着物**

着物のイベントを水戸市民会館やぐら広場をメイン会場に開催します。当館広場では、ヨガのステージなどを行います。

10月

**あおぞらクラフトいち Autumn in 水戸**

県内外で活動しているクラフト作家による手作り作品の展示・販売のほかアコースティックライブ、ワークショップなどを行います。

主催：あおぞらクラフトいち実行委員会

12月17日(日)

**水戸の街に響け！ 300人の《第九》 2023**

※詳細は、音楽部門事業概要(P.13)をご覧ください。

## アートで応援プロジェクト

水戸芸術館では、水戸市民及び茨城県民、そして多くの人々に音楽や演劇、美術を通して、コロナ禍でも明日を生きる活力と希望を持っていただきたいという願いのもと、『水戸芸術館 アートで応援プロジェクト』を令和3年度から立ち上げました。当館で開催する企画だけでなく、県内市町村や県内施設、学校と協力しながら館外公演やアートプログラムを行い、芸術の力で地域の皆様を応援する企画を実施してまいります。

7月13日（木）～17日（月・祝）

『ファンファーレ!!』～響き続けた吹奏楽部の物語～

水戸市民会館開館記念事業

会場：水戸市民会館ユードムホール（中ホール）

※詳細は、演劇部門事業概要（P.27）をご覧ください

3月24日（日）

宮田 大（チェロ）常陸太田公演

会場：常陸太田市市民交流センター

※内容は3月23日（土）の水戸芸術館での公演（P.14）と同じです。

主催：常陸太田市市民交流センター

3月31日（日）

バッハ・コレギウム・ジャパン演奏会

水戸市民会館開館記念事業

会場：水戸市民会館グロービスホール（大ホール）

※詳細は、音楽部門事業概要（P.16）をご覧ください

通年

小中学生のための学校訪問アートプログラム

会場：各小中学校

～当館から学校に出向き、アートプログラムをお届けします！～



浅田政志「とびっきりの記念写真」2021年の様子

当館で開催する展覧会にちなんだアーティストによるワークショップから、市民ボランティアによる対話型鑑賞、学芸員によるレクチャー（オンライン対応可）まで、学齢別に多彩なアートプログラムを用意し、美術を通じたアクティブ・ラーニングの機会を子どもたちに届けます。

## 水戸市民会館開館記念事業

水戸市民会館開館記念事業として下記の事業を実施し、市民会館、京成百貨店、そして当館の連携によって、3つの施設から成る愛称「MitoriO（ミトリオ）」地区の振興と中心市街地の活性化に寄与してまいります。

4月1日（土）～6月25日（日）

### 「磯崎 新一水戸芸術館を創る一」展

会場：現代美術ギャラリー第9室、エントランス2階回廊



当館の設計者で、昨年12月に逝去された世界的建築家の磯崎新氏を偲ぶ展示。2019年に当館で開催した「磯崎新一水戸芸術館 縁起一」展の再現とともに、磯崎氏によるシルクスクリーン版画作品や当館の設計図などを公開しています。

### 関連企画

5月13日（土）

### 青木 淳 講演会「水戸芸術館と磯崎 新と私」

会場：ACM 劇場



建築家・青木 淳による講演会。青木が磯崎 新アトリエに勤務していた時代のこと、磯崎 新との思い出、そして同アトリエ時代最後に担当した水戸芸術館について、お話しします。

6月上旬～

### 大規模植栽プランター設置

会場：水戸芸術館会議場前庭



水戸市民会館に隣接する当館会議場前庭を季節の花々で彩り、お客様を華やかに迎えます。

協力：（一財）水戸市公園協会

## 6月下旬～7月上旬 光のアート作品展示

会場：水戸芸術館広場カスケード、回廊等



当館シンボルタワーのライトアップを手掛ける逢坂卓郎（筑波大学名誉教授）の制作により、MItoriO 地区の夜を光のアートで彩ります。

7月2日（日）～

## 「公共建築はみんなの家である」展 住民たちがみた公共建築

会場：水戸市民会館



水戸市民会館設計者である建築家・伊東豊雄の展覧会。これまでに伊東が手掛けた代表的な公共施設の模型、写真、映像等の資料や、そこに賑わいをつくり出してきた人々へのインタビューなどを紹介します。

### 関連企画

7月22日（土）

## 「伊東豊雄講演会：公共建築はみんなの家である」

会場：水戸市民会館ユードムホール（中ホール）



©藤塚光政

建築家・伊東豊雄が、水戸市民会館の設計に込めた想いを伝え、今日の公共建築の意義とこれからのあるべき姿を考察します。

7月13日（木）～17日（月・祝）

## 『ファンファーレ!!』～響き続けた吹奏楽部の物語～

※詳細は、演劇部門事業概要（P.27）をご覧ください

7月22日（土）～10月9日（月・祝）

### アートセンターをひらく 2023—地域をあそぶ

会場：水戸芸術館現代美術ギャラリー、水戸市民会館、京成百貨店 他

※詳細は、美術部門事業概要（P.41）をご覧ください

8月30日（水）

### サイトウ・キネン・オーケストラ ブラス・アンサンブル

会場：水戸市民会館グロービスホール（大ホール）

※詳細は、音楽部門事業概要（P.15）をご覧ください

3月31日（日）

### バッハ・コレギウム・ジャパン演奏会

会場：水戸市民会館グロービスホール（大ホール）

※詳細は、音楽部門事業概要（P.16）をご覧ください

<時期未定>

### 水戸芸術館・水戸市民会館 建築ツアー

会場：水戸市民会館、水戸芸術館

当館および水戸市民会館のそれぞれの建築の魅力を紹介するツアーを開催します。

### 水戸芸術館・水戸市民会館 名建築を撮影しよう！

会場：水戸市民会館、水戸芸術館

当館の写真をこれまで撮り続けてきた写真家・田澤 純を講師に、当館および水戸市民会館の魅力的な建築を撮影するワークショップを行います。

# 吉田秀和賞

「吉田秀和賞」について

音楽を中心に芸術評論に多大な功績のあった吉田秀和水戸芸術館初代館長の名を冠し、1990年に創設された吉田秀和賞は、芸術文化の振興を目的として、吉田秀和芸術振興基金において優れた芸術評論に対して賞の贈呈をしてまいりました。2013年度からは、当財団が運営し、本年度は、第33回目の審査を行います。

審査委員 片山杜秀 評論家・慶應義塾大学法学部教授

審査委員 堀江敏幸 作家・早稲田大学文学学術院 文化構想学部教授

---

## 受賞作品

- 第1回（1991年 平成3年度） 秋山邦晴『エリック・サティ覚え書』青土社 1990年6月刊
- 第2回（1992年 平成4年度） 持田季未子『絵画の思考』岩波書店 1992年4月刊
- 第3回（1993年 平成5年度） 該当作品なし
- 第4回（1994年 平成6年度） 渡辺 保『昭和の名人 豊竹山城少掾』新潮社 1993年9月刊
- 第5回（1995年 平成7年度） 松浦寿輝『エッフェル塔試論』筑摩書房 1995年6月刊
- 第6回（1996年 平成8年度） 長木誠司『フェッルッチョ・ブゾーニ』みすず書房  
1995年11月刊
- 第7回（1997年 平成9年度） 伊東信宏『バルトーク』中央公論社 1997年7月刊
- 第8回（1998年 平成10年度） 該当作品なし
- 第9回（1999年 平成11年度） 青柳いづみこ『翼のはえた指 評伝 安川加壽子』白水社  
1999年6月刊
- 第10回（2000年 平成12年度） 小林頼子『フェルメール論 一神話解体の試み』八坂書房  
1998年8月刊  
小林頼子『フェルメールの世界 17世紀オランダ風俗画家の軌跡』日本放送出版協会 1999年10月刊
- 第11回（2001年 平成13年度） 加藤幹郎『映画とは何か』みすず書房 2001年3月刊
- 第12回（2002年 平成14年度） 該当作品なし
- 第13回（2003年 平成15年度） 岡田温司『モランディとその時代』人文書院  
2003年8月刊
- 第14回（2004年 平成16年度） 湯沢英彦『クリスチャン・ボルタンスキー 死者のモニュメント』水声社 2004年7月刊
- 第15回（2005年 平成17年度） 宮澤淳一『グレン・グールド論』春秋社 2004年12月刊
- 第16回（2006年 平成18年度） 有木宏二『ピサロ／砂の記憶 一印象派の内なる闇』  
人文書院 2005年11月刊
- 第17回（2007年 平成19年度） 該当作品なし

- 第18回（2008年 平成20年度） 片山杜秀『音盤考現学』アルテスパブリッシング  
2008年2月刊  
片山杜秀『音盤博物誌』アルテスパブリッシング  
2008年5月刊
- 第19回（2009年 平成21年度） 岡田暁生『音楽の聴き方』中央公論新社 2009年6月刊
- 第20回（2010年 平成22年度） 白石美雪『ジョン・ケージ 混沌ではなくアナキー』  
武蔵野美術大学出版局 2009年10月刊
- 第21回（2011年 平成23年度） 椎名亮輔『デオダ・ド・セヴラック 南仏の風、郷愁の音画』  
アルテスパブリッシング 2011年9月刊
- 第22回（2012年 平成24年度） 新関公子『ゴッホ 契約の兄弟 フィンセントとテオ・ファン・  
ゴッホ』ブリュッケ 2011年11月刊
- 第23回（2013年 平成25年度） 末永昭和『評伝 ジャン・デュビュッフェ アール・ブリュッ  
トの探求者』青土社 2012年10月刊
- 第24回（2014年 平成26年度） 通崎睦美『木琴デイズ 平岡養一「天衣無縫の音楽人生」』  
講談社 2013年9月刊
- 第25回（2015年 平成27年度） 榎木野衣『後美術論』美術出版社 2015年3月刊
- 第26回（2016年 平成28年度） 立花 隆『武満徹・音楽創造への旅』文藝春秋 2016年2月刊
- 第27回（2017年 平成29年度） 平芳幸浩『マルセル・デュシャンとアメリカ  
—戦後アメリカ美術の進展とデュシャン受容の変遷—』  
ナカニシヤ出版 2016年7月刊
- 第28回（2018年 平成30年度） 堀 真理子「改訂を重ねる『ゴドーを待ちながら』—演出家とし  
てのベケット—」藤原書店 2017年9月刊
- 第29回（2019年 令和1年度） 沼野雄司『エドガー・ヴァレーズ—孤独な射手の肖像』  
春秋社 2019年1月刊
- 第30回（2020年 令和2年度） 柿沼敏江『<無調>の誕生 ドミナントなき時代の音楽のゆくえ』  
音楽之友社 2020年1月刊  
荒川 徹『ドナルド・ジャッド—風景とミニマリズム』  
水声社 2019年7月刊
- 第31回（2021年 令和3年度） 前田良三『ナチス絵画の謎—逆襲するアカデミズムと  
「大ドイツ美術展」』みすず書房 2021年3月刊
- 第32回（2022年 令和4年度） 新井高子『唐十郎のせりふ 二〇〇〇年代戯曲をひらく』  
幻戯書房 2021年12月刊



公益財団法人 水戸市芸術振興財団  
〒310-0063 茨城県水戸市五軒町1-6-8  
TEL : 029-227-8111 FAX : 029-227-8110  
E-mail : kouhou@arttowermito.or.jp  
<https://www.arttowermito.or.jp/>